



日産合成工業株式会社 メールマガジン

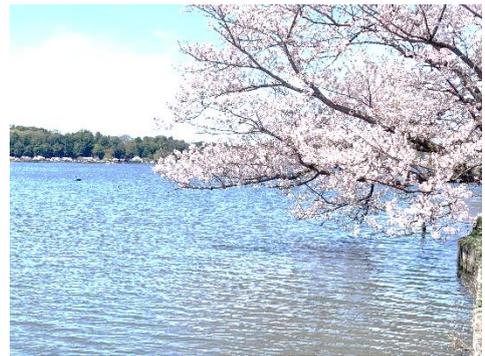
2025・4 第209号



桜 と サクランボ と 桜味

関東では、今年は桜の開花自体は早かったものの、その後に雨や寒の戻りもあり、意外と長くお花見が楽しめました。北海道や東北ではこれから開花し、ゴールデンウィークにかけて桜のシーズンになると思いますが、よいお花見ができるといいですね。

一般的に“桜 (Cherry blossom)” と言えば、観賞用として最も多く植えられている“ソメイヨシノ” が挙げられますが、食用のサクランボ (Cherry) は、ミザクラ (実桜) という別の種類のサクラの果実で、旬は初夏の6~7月頃となります。秋にイチョウの木に銀杏 (ぎんなん、イチョウの種子) が生るように、サクランボも普通に桜の木に生るのかな? と思っていましたが、実は花を観賞する品種の桜は実は大きくならず、セイウミザクラ (甘果桜桃) の果実がいわゆる「サクランボ」と呼ばれるそうです。ちなみに、大塚愛さんの楽曲「さくらんぼ」(2003年) が有名ですが、大塚さん自身は、サクランボ自体は食べられないほどに嫌いだそうです (ウィキペディア情報)。



さて、桜のシーズンともなれば、“桜味” のスイーツやドリンクをよく見かけますが、テレビのコメンテーターが『桜味ってそもそも何味なの?』と言っていたのを思い出しました。確かに、桜餅に始まり、スタバの桜風味のフラペチーノや、ミスの桜味ドーナツ...とかなりの桜味推しで溢れかえっていますが、定義はあるのでしょうか? 調べてみると、“桜味” は、桜の葉に含まれる「クマリン」という成分による香りや風味を指すそうです。クマリンは、桜の葉が生きている間は「クマリン配糖体」として存在するため香りを発しませんが、桜の葉を塩漬けや乾燥させることでクマリンを含む細胞が壊れて分解され、独特の香りを生じるそうです。ソメイヨシノの葉はクマリンが出にくく、花びらも一重で色が薄いため食用には向かないようで、桜餅には、クマリンを多く含み、桜の香りを引き出しやすい「大島桜 (オオシマザクラ)」の葉が使われるとのこと。ソメイヨシノは完全に観賞に特化した桜ということですね。

イチゴ と ミツバチの関係

この季節は、いちご狩りシーズンの最盛期でもあります。イチゴは桜と同じバラ科に属するとともに、昆虫が媒介して受粉を行う虫媒花 (ちゅうばいか) です。昆虫が食料を求めて花にもぐっているうちに、体毛についた雄蕊



<https://ecologia.100nen-kankyo.jp/column/single294.html>

の花粉が雌蕊にくっつく (受粉) ことで結実しますが、このような活動をポリネーション (花粉交配) と呼ぶそうです。古くからイチゴをはじめサクランボ・メロン・リンゴなどの花を受粉するために“ミツバチ” が利用されてきましたが、ミツバチによるポリネー

シオンでは、花の中できるとまわってまんべんなく受粉させてくれますので、大きく形のきれいなイチゴが育ちやすくなるそうです。日本では、在来種のニホンミツバチが養蜂種として飼養されていましたが、明治時代にセイウミツバチが輸入されるようになってからは、主としてセイウミツバチが養蜂種として利用されています。ちなみに、人間に飼われているミツバチは、法律上は家畜に分類され、養蜂は畜産に該当します。

スギ花粉の飛散量を抑える研究

さて、桜やイチゴのシーズンと同じ時期にピークを迎えるもののうち、最も好ましくないものはやはり“花粉症”でしょう。日本人の2人に1人は罹患していて、花粉症による労働意欲の減退に伴う損失額は1日当たり2,000億円を超え、治療費や薬品代は年間約3,000億円と見込まれるなど、いまや「国民病」とも言われており、国会でも対策が議論されるようになっていきます。

政府や林野庁は、スギ人工林の伐採や改良品種（少花粉スギや無花粉スギ）への植え替え等の対策に乗り出していますが、全国のスギ林は450万ヘクタール（ほぼ九州の面積ほど）も存在する一方で林業従事者は減り続けている現状から、あまり現実的とは言えません。

一方、近年、スギ花粉の飛散量を大幅に減らす画期的な手法が有力視されています。『花粉症と人類』（岩波新書）の著者で東京農業大学の小塩海平教授の研究によれば、天然油脂由来の界面活性剤（オレイン酸誘導体非イオン系界面活性剤）を主成分とした液を、夏から秋にかけて杉の木に散布することで、スギ花粉を放出する雄花のほぼすべてを選択的に枯死させられることが分かっているそうです。

牛のアレルギーについて

ヒトの花粉症の場合、花粉が鼻や目から体に侵入すると、その刺激で「IgE抗体」という物質が作られ、「マスト細胞（肥満細胞）」に結合します。このとき、花粉は体内から追い出すべき異物として記憶され、ヒスタミンやロイコトリエンなどの化学物質を放出しますが、この反応が鼻の粘膜で起こるとくしゃみや鼻水、鼻づまり（アレルギー性鼻炎）を引き起こし、目の粘膜で起これば目のかゆみや涙目（アレルギー性結膜炎）といった症状が現れます。

一方、牛におけるアレルギー症状については、急性の皮膚発疹として現れることが多く、振戦、流涎、第一胃鼓脹、下痢を呈する場合があります。さらに重度な場合は呼吸器症状や循環器症状といったいわゆるアナフィラキシーと呼ばれる病態に至ることもあります。『同一牛舎内で続発した黒毛和種子牛におけるアレルギー疾患を疑う事例』（岩獣会報, Vol.50 (2024), 岩手県農業共済組合 田村倫也先生)によれば、A～Cの牛舎のうち、牛舎Bに限定して眼瞼腫脹、頸部皮膚の膨疹、外陰部・肛門周囲浮腫、下痢、血便（直腸粘膜の浮腫）、食欲不振の症状を呈する子牛が計12頭続発し、加療により11頭が回復、1頭が死亡した事例があったとのこと。しかし、植物由来アレルギー、真菌によるアレルギーなどの可能性が検討されましたが、本事例のアレルギー疾患の原因特定には至らなかったようです。

今年のスギ花粉飛散量は収まりつつありますが、根本的な解決ができないと、毎年2～4月（＝人生の1/4）はアレルギー反応に晒されることとなります。イチゴや桜のように花粉の恩恵を受けることもありますので、単純に花粉＝悪者と決めつけることはできませんが、どうやら海外ではスギ花粉症はないらしく（来日した外国

人が日本のスギで花粉症を発症することはあるらしい)、残りの人生、何らかの方法で花粉症から逃避できないものかと思ってしまう。(O)

お知らせ

印刷用の PDF ファイル

印刷用に PDF ファイルを添付しました。PDF ファイルをご利用いただくためには、Adobe Reader が必要です。お持ちでない場合、[こちらからダウンロードし、インストールしてご利用ください。](#)

メールマガジンへの登録・ご質問等

メールマガジンの配信の停止や登録内容の変更、お問い合わせ、ご意見・ご要望等々は[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

アドレス変更をお忘れなく

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を[当社のウェブサイト](#)のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願いします。

QR コード

QR コードから、[当社のウェブサイト](#)のトップページにアクセスできます。

